

リスクコミュニケーション活動検討の要点と担当者のためのチェックリストの案

6月5日 関澤 純

リスクコミュニケーション活動の進め方を以下の点から検討する。チェックリストは個別活動への適用を考えておりいくつかの事例をとりあげて検討する。 * 意見交換会・地域指導者育成講座、* 食の安全ダイヤルへの回答・食品安全モニターの意見の活用、* e-マガジン・Q&A・食品安全・ファクトシート・キッズボックスなどわかりやすい情報の提供の工夫、* インターネットホームページのデザインとわかりやすさ・案内機能などに分けてまとめる。今回は事務局に今後の改善に向けての担当者としての自己評価の素材を提供していただき、調査会としての検討を行うものとする。

リスクコミュニケーション活動評価の要点

- 1 目的と目標設定： 何を、だれに、どこまで、なぜが明確にされたか？
- 2 対象の分析と明確化： 対象による問題と関心の把握および分析はどのようなだったか？
- 3 準備プロセスの検討： 対象に伝え、共に検討すべき論点の明確化と、それにマッチしたコミュニケーションの時期、場、主なプレイヤーの設定、討議手法と実行体制は事前にどのように検討・準備されたか？
- 4 コミュニケーションプランの具体化とキーメッセージの明確化： 3の具体化
- 5 達成できた点とできなかった点およびその理由：コミュニケーション時と事後の検討
- 6 今後の改善へのポイント： 目的とするターゲットに対する的確な計画であったか？
理解度、満足度などから検討し、改善点、他の手法やアプローチは考えられないか？などを具体的に評価する。

基本的に適切に計画、実施されているかを検討するが、ある程度定量的に検討する必要があるアンケート調査結果があれば提供をお願いする。業務として効果のPDCAサイクル分析だけでなく、毎回変わりうる対象との関係の改善に向けた分析が、より重要な課題となる可能性がある。

担当者の自己評価のためのチェックリスト（検討を通じて改善を図るものとする）：（ ）内は目的との関係で優先度を記す。

ただし、このチェックリストは主に意見交換会を想定して作られている。

- 1 主な対象の例：（ ）市民、（ ）女性、（ ）子ども、（ ）高齢者、（ ）若者、（ ）妊婦
（ ）消費者、（ ）生産者、（ ）流通関係者、（ ）食品提供者、（ ）食品衛生関係者、
（ ）保健医療関係者、（ ）食品安全行政関係者、（ ）メディア、（ ）他_____。
- 2 目的： 緊急時対応（ ） 知識の普及（ ） 意見聴取（ ） 協議（ ） など。
- 3 事前準備 * 企画と打ち合わせ：いつ、だれが、何を、につき具体的に示す
* 関係者からの意見聴取：いつ、だれが、何を、につき具体的に示す
* メッセージの検討：いつ、だれが、何を、につき具体的に示す
* 日程、場所、主たるプレイヤーの設定：いつ、だれが、何を、につき具体的に示す
* 協力者の選択と作業分担など：いつ、だれが、何を、につき具体的に示す
- 4 実施(会議の場合)：進行と会場の補助者、コーディネータ、基調講演者、パネリストと協議
- 5 事後評価（目的と場合に応じて）：
理解度（客観的な指標を検討し設定）
満足度（客観的な指標を検討し設定）

不十分な点と考えられる理由は何か？：手法などの改善方向をあわせて箇条書きする。

座長提案チェックリスト案への反映

リスクコミュニケーション取組名称: 我が国に輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価の実施について	実施(予定)日 平成19年4月23日(福岡)、24日(大阪)、25日(札幌)、27日(東京)	主な対象者: 消費者、食品関連事業者
分類: 意見交換会	主催: 食品安全委員会	
プログラム: ・講演「我が国に輸入される牛肉及び牛内蔵に係る食品健康影響評価の実施に関するプリオン専門調査会の見解について」 ・パネルディスカッション ・会場参加者との意見交換	開催形式: 講演とパネルディスカッション 周知方法: プレスリリース、HP、メールマガジン等への掲載 使用ツール: 食品安全委員会プリオン専門調査会から食品安全委員会に報告された報告書「我が国に輸入される牛肉及び牛内蔵に係る食品健康影響評価の実施に関するプリオン専門調査会の見解について(平成19年3月19日付)」,当該報告書を説明するパワーポイントスライド	
主な対象者	() 市民、() 女性、() 子ども、() 高齢者、() 若者、() 妊婦、 (1) 消費者、 (1) 生産者、() 流通関係者、(1) 食品提供者、() 食品衛生関係者、 () 保健医療関係者、(4) 食品安全行政関係者、() メディア、() 他_____。	
目的	緊急時対応()、知識の普及()、意見聴取(1)、協議()	
事前準備 : 準備開始時期	2007年3月22日第183回食品安全委員会で、食品安全委員会プリオン専門調査会から報告された「我が国に輸入される牛肉及び牛内蔵に係る食品健康影響評価の実施に関するプリオン専門調査会の見解について」の了承後	
企画	事務局・評価担当とリスクコミュニケーション担当が、開催時期、場所等について企画	
関係者からの意見聴取 メッセージの検討	事務局・評価担当とリスクコミュニケーション担当が、消費者団体から意見聴取	
	事務局・評価担当とリスクコミュニケーション担当が、メインメッセージを設定。 自ら評価にあたってプリオン専門調査会で議論された内容、「見解」発表に至るまでの経緯。 自ら評価の必要性について、関係者からの意見、情報を聴いて検討を進めること。 当該案件について、議論をすすめていく際には、評価の前から関係者の参画が必要であること。	
日程・場所・主たるプレイヤーの設定	事務局・評価担当とリスクコミュニケーション担当が、日程、場所、パネリスト等を検討。 日程については、専門調査会から委員会に報告の後、できるだけ早い時期とする。講師のスケジュール会場の空き状況も考慮する。	
	場所については、主要な消費地と生産地とする。東京、大阪、札幌、福岡 パネリスト等については、フードチェーンにおける主要な関係者(消費者、生産者、外食事業者、輸入業者、消費者)と、プリオン専門調査会専門委員とする。コーディネーターは、食品安全委員会委員とする。	
協力者の選択と作業分担	意見交換会の議事内容については、事務局が担当。当日の会場設営などインフラの担当は、外部委託業者。	
実施: 進	司会は事務局・リスクコミュニケーション官、	
	会場の補助者	
	外部委託業者	
事後評価: 理解度、満足度	目標値は、特に設定しなかった。アンケート調査結果から、満足度は不明。理解度は、意見交換会全体として、「とてもわかりやすかった 19.4%」「わかりやすかった55.6%」「わかりにくかった9.5%」「全くわからなかった0.7%」であった。	
不十分な点と考えられる理由	東京以外では参加者が少なかった。開催の周知が必ずしも十分ではなかった。	

担当者による設計・検証整理票

リスクコミュニケーション取組名称: 我が国に輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価の実施について	実施(予定)日 平成19年4月23日(福岡)、24日(大阪)、25日(札幌)、27日(東京)	主な対象者: 消費者、食品関連事業者
分類: 意見交換会	主催: 食品安全委員会	結果の反映状況
プログラム: ・講演「我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価の実施に関するプリオン専門調査会の見解について」 ・パネルディスカッション ・会場参加者との意見交換	開催形式: 講演とパネルディスカッション 開催方法: プレスリリース、HP、メールマガジン等への掲載 使用ツール: 食品安全委員会プリオン専門調査会から食品安全委員会に報告された報告書「我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価の実施に関するプリオン専門調査会の見解について(平成19年3月19日付)」,当該報告書を説明するパワーポイントスライド	平成19年5月17日開催の第190回食品安全委員会合同において、自ら評価として実施することを決定した。

	設計	検証方法、【検証に使用する資料】	結果(ターゲットに対して的確な計画であったか、達成できた点とできなかった点およびその理由)	レビュー結果(今後どう改善するのか、他の手法やアプローチは考えられないか)
目的	当該自ら評価について、評価の必要性、評価を行う場合の評価の進め方、評価に必要な調査項目等を、関係者相互間における情報及び意見の交換を行う。	アンケートの項目として、評価の必要性に関するものを入れる。 (例:意見交換会に参加した結果、自ら評価について、必要と思ったかどうか) [当日アンケート、議事録]	アンケートの自由回答欄についても、評価の必要性、評価対象の優先順位などに関する意見が多くあり、自ら評価についての意見交換という点では、理解されていたようであった。一方で、「目的が明確でない」との意見や、米・加産牛肉に関する意見もあり、目的を十分理解していない者もみられた。参加者の中には不満だった人もいた。	開催目的の明確化、案件に直接は関係しない意見の取扱いを決めておく必要がある。プレスリリースの段階、当日の説明などにおいて、事前に参加者に目的が明確にわかるような工夫の検討が必要である。
目標(重点目標)	食品安全委員会が行う、米・加産以外の牛肉の自ら評価について、プリオン専門調査会の「見解」の内容を理解してもらう。 当方から発信した情報に対して、関係者としての意見を出していただき、参加者の情報共有を図る。	アンケートの項目として、「見解」についての理解度、課題についての理解度、パネリストの発言に対する満足度などを入れる。 パネリストの発言に、評価の必要性、調査項目等についてのアドバイスが明確に示されていたかをチェックする。 [当日アンケート、議事録]	プリオン専門調査会の「見解」についての理解度はアンケートに入れていないが、配布資料としての評価は、「わかりやすかった」との意見が多かった。質疑応答、アンケートの回答からも、「見解」については、概ね理解されているようであった。関係者の意見等についても、パネルディスカッションの冒頭でそれぞれの立場からの見解が確認されていた。	開催時期について、評価する旨の意見が多かったことから、「議論への参画」という意味では、関係者にとっても満足できるものであったと思われる。関係者の意見を評価にどう反映させていくかが、課題である。特に、評価の優先順位の検討などについて、関係者にどう説明していくかがポイントになると考えられる。
(一般的な目標)	関係者としての参加意識をもってもらおう。当該リスクは、リスク評価の最初の段階から、参加者が参画するという位置づけのものである。このことについて、認識してもらい、協力を得る。	アンケート項目に、参画意識(例:今後どのように参画していきたいかなど)に関する質問を入れる。委員会として、どのように関係者に参画してほしいか、共通認識を構築しておく。参加者の内訳も参照する。 [当日アンケート、議事録]	意見交換会の開催時期について、概ね満足とされた。アンケートの結果から、参画意識については、「参画したい」との意識が読み取れるものがあった。しかし、長期的な参画につながるかどうかは不明であった。	
主な対象者(参加者)	消費者、食品関連事業者	申込者内訳で確認する。 [参加者数集計表]	アンケートの結果から、東京を除き、行政が約半数であった。東京は、事業者が最も多く、43%、行政は22%であった。	大きな偏りはなかったが、本案件のような意見交換会では、事業者、消費者、行政関係者の参加割合がどのくらいが適切なかの検討をする必要がある。

目標達成のための準備:想定				
	どのような工夫をするか	準備が有効であったか	次回に向けて	
メインメッセージ(原則3つまで) 自ら評価にあたってプリオン専門調査会で議論された内容、「見解」発表に至るまでの経緯。 自ら評価の必要性について、関係者からの意見、情報を聴いて検討を進めること。 当該案件について、議論をすすめていく際には、評価の前から関係者の参画が必要であること。	・メインメッセージ について、関係者がリスク評価の最初の段階から参画するという意義について、開会挨拶に盛り込む。 ・参加者の関心や疑問については、これまでのBSEの意見交換会で実施したアンケートや意見聴取の過程で出された意見を参考に想定する。	・現段階で意見交換を行うことについて、合意が得られていたようであった。 同時に、意見反映の過程の透明性の確保を求める声もあった。パネリストの選定についても、消費者代表に対しては、その妥当性について一部の参加者から疑問の声があった。評価実施については、「できるだけ早く」との意見が多かった。 ・開催地による意見のばらつきは少なかった。 ・資料の事前配布を求める声もあった。資料がいつもよりも多いことから、このような要望が多くなったと思われる。 ・属性別(「消費者団体、主婦、無職等」、「食品関連事業者」、「行政」)で、パフォーマンス(問2の3~7)に対するアンケート結果は、それぞれに大きな違いは見られなかった。	・関係者がリスク評価の最初の段階から参画するという意義について、参加者募集の時に、このメッセージが伝えられると、消費者団体の参加が増えたのではないかと考えられる。 ・評価に対する関心、期待が大きいようなので、今後の途中経過についての情報提供をどうするかが課題と考えられる。 ・参加者の関心について、想定していた範囲を超えるものはなかったが、参加者の関心・疑問を事前に把握する方法について検討する必要がある。 ・パネリストの選定方法については、今回は、関係者を代表すると考えられる団体を通じて推薦を依頼した。しかし、実際にどの程度の代表性があるのかは不明である。人数を絞ってパネリストを選択しなければならないこと、どのようにして意見が偏らないようにするかは工夫を要する。また、パネリストと参加者の関係(パネルディスカッション)は、議論の筋道をつけるために行っているものであり、意見の集約の結果ではないことについての理解を促す工夫も必要である。	
想定される受け手側(参加者)の関心・疑問、その確認方法 米国・カナダ産以外の牛肉等の安全性はどのように担保されるのか。 米国・カナダ産以外の牛肉等の評価はどのような考え方で行われるのか。いつ頃結論が出るのか 自ら評価した結果がリスク管理にどのように反映されるのか。				
実施方法 論点を絞って議論できるような関係者によるパネルディスカッションも入れる。 開催地は、効率的な周知ができるよう、都市部で複数回(東京、大阪、札幌、福岡)とする。				

食品に関するリスクコミュニケーション

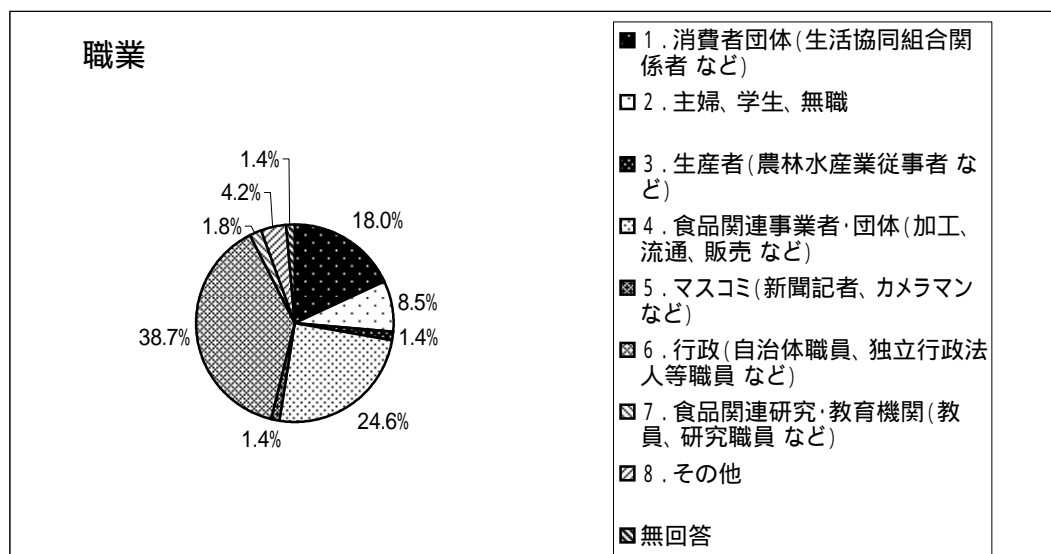
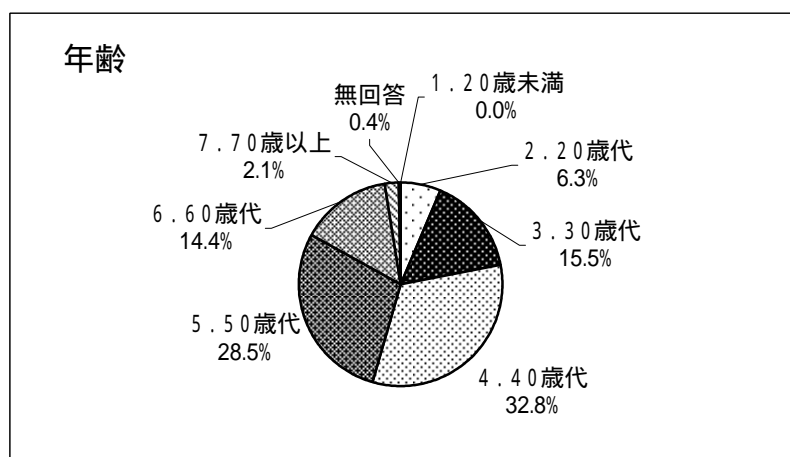
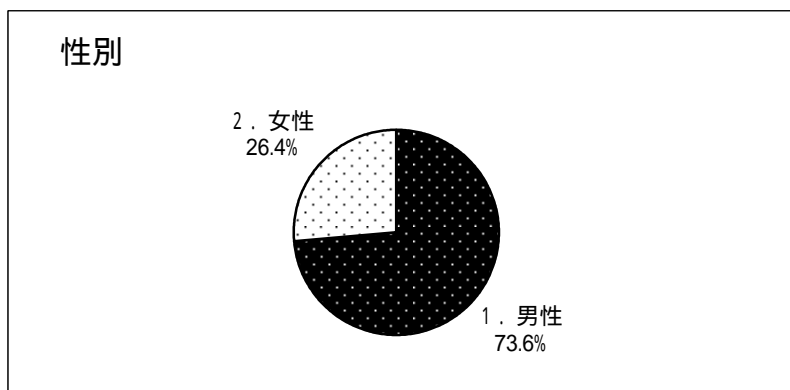
- 我が国に輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価の実施について -

アンケート集計結果

開催日: 2007年4月23日・24日・25日・27日

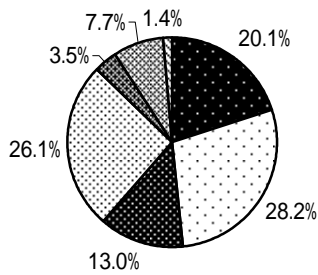
参加者数: 366名 回答数: 284名 回答率: 77.6%

問1 あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きます。
以下の設問について、それぞれあてはまるもの1つを選んで番号を で囲んでください。



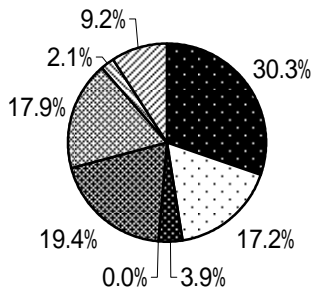
- 1. 消費者団体 (生活協同組合関係者 など)
- 2. 主婦、学生、無職
- 3. 生産者 (農林水産業従事者 など)
- ▨ 4. 食品関連事業者・団体 (加工、流通、販売 など)
- 5. マスコミ (新聞記者、カメラマン など)
- ▨ 6. 行政 (自治体職員、独立行政法人等職員 など)
- ▨ 7. 食品関連研究・教育機関 (教員、研究職員 など)
- ▨ 8. その他
- ▨ 無回答

本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか



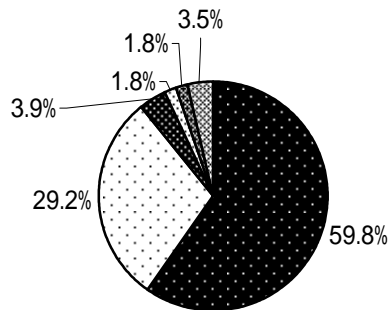
- 1. 食品安全委員会のホームページ
- 2. 食品安全委員会からの案内資料
- 3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)
- 4. 関係団体からのご案内資料
- 5. 知人からの紹介
- 6. その他
- 無回答

本日の意見交換会に参加された動機



- 1. 「我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価の実施に関するプリオン専門調査会の見解について」が知っていたから
- 2. 米国やカナダ以外から輸入される牛肉の安全性など現状について知りたかったから
- 3. 米国やカナダ以外から輸入される牛肉についてのOIEやEFSAの行う評価について知りたかったから
- 4. 専門家と直接意見交換をしたかったから
- 5. 業務の一環として参加する必要があったから
- 6. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから
- その他
- 無回答

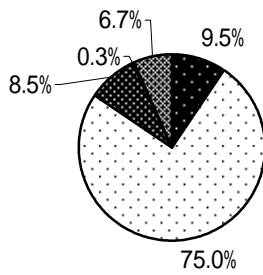
「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか



- 1. 強くそう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 全くそう思わない
- 5. わからない
- 無回答

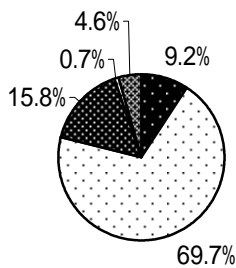
問2 本日の意見交換会についてお聞きます。それぞれあてはまるところを で囲んでください

意見交換会開催時期



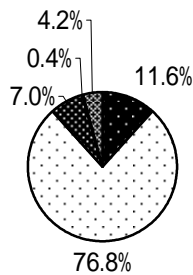
- 1. とても適切だった
- 2. 適切だった
- 3. あまり適切ではない
- ▣ 4. 全く適切ではない
- 無回答

開催方法(参加手続き・場所・所要時間)



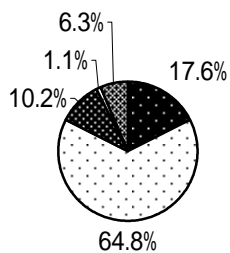
- 1. とても適切だった
- 2. 適切だった
| ■ 3. あまり適切ではない |
| ▣ 4. 全く適切ではない |
| ■ 無回答 |

配布資料



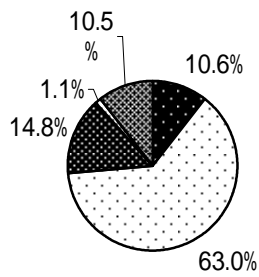
- 1. とてもわかりやすかった
- 2. わかりやすかった
- 3. わかりにくかった
- ▣ 4. 全くわからなかった
- 無回答

専門家による講演



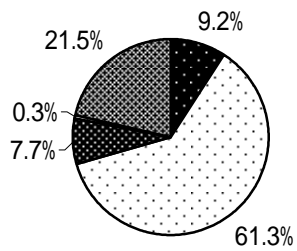
- 1. とてもわかりやすかった
- 2. わかりやすかった
- 3. わかりにくかった
- ▣ 4. 全くわからなかった
- 無回答

パネルディスカッション



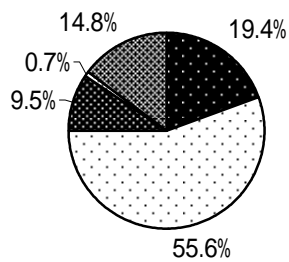
- 1. とてもわかりやすかった
- 2. わかりやすかった
- 3. わかりにくかった
- 4. 全くわからなかった
- 無回答

意見交換時の応答



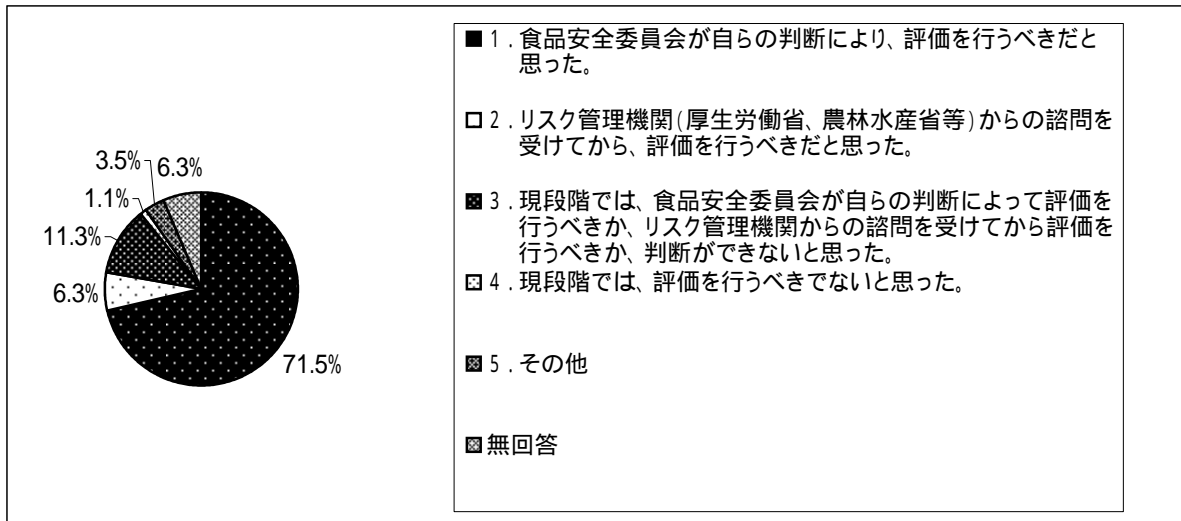
- 1. とてもわかりやすかった
- 2. わかりやすかった
- 3. わかりにくかった
- 4. 全くわからなかった
- 無回答

意見交換会全体

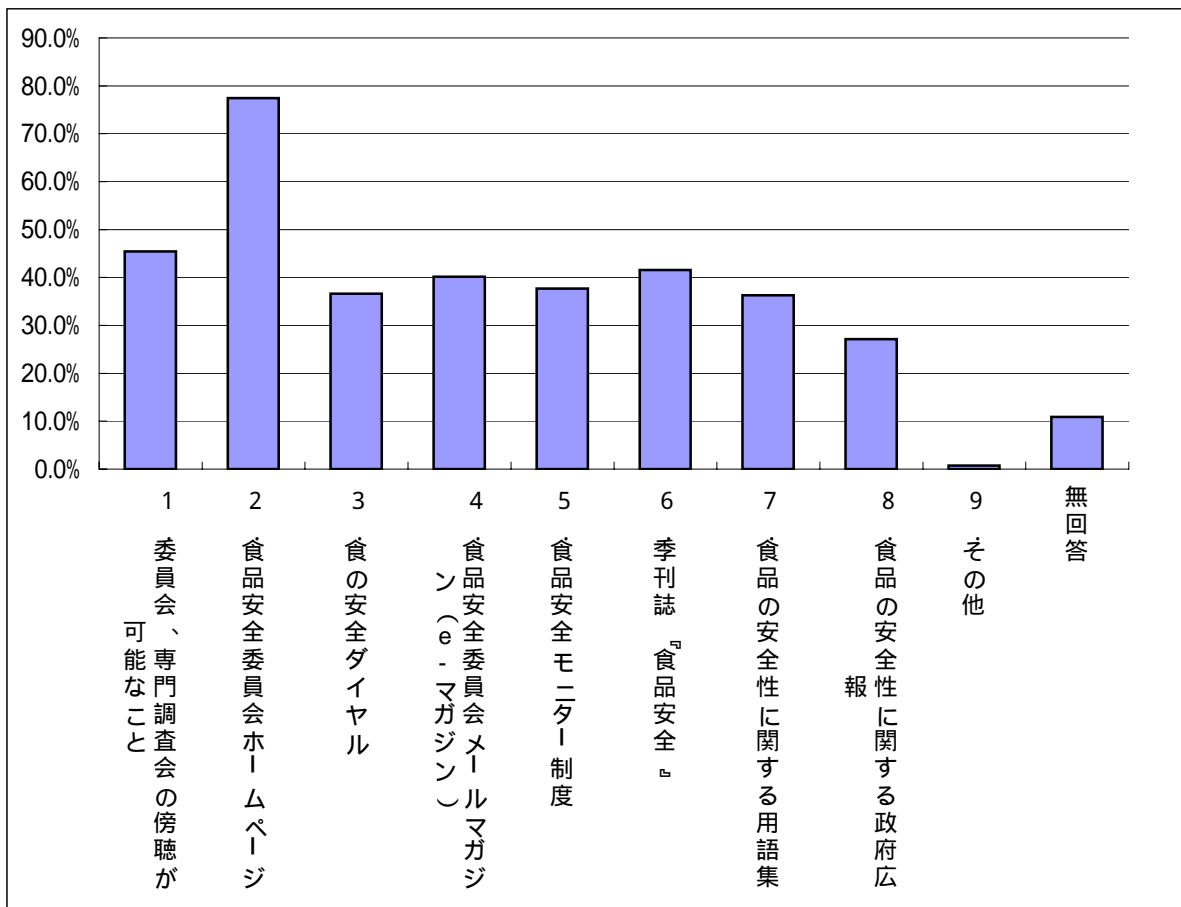


- 1. とてもわかりやすかった
- 2. わかりやすかった
- 3. わかりにくかった
- 4. 全くわからなかった
- 無回答

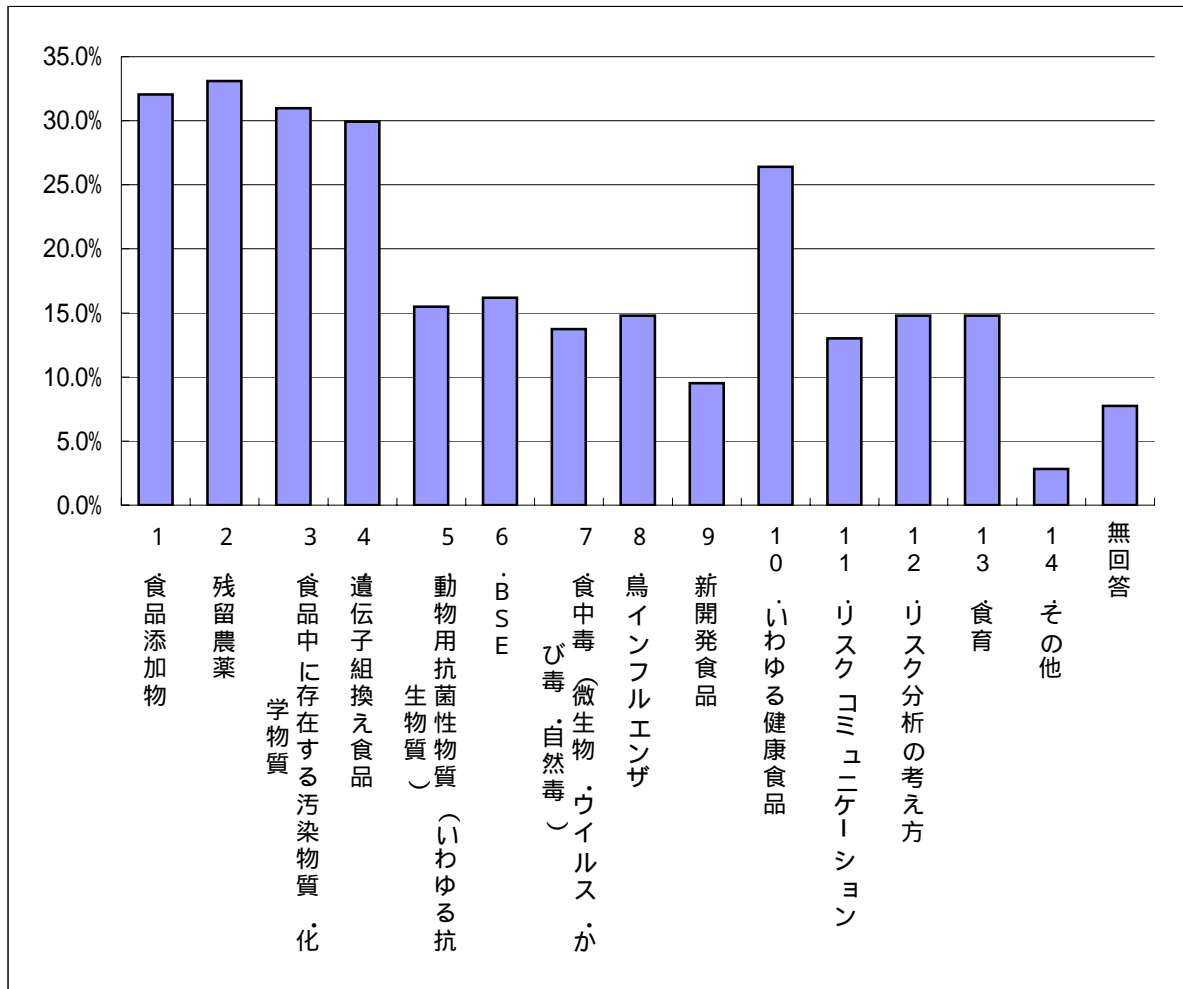
問3 本日の意見交換会にご参加されて、食品安全委員会が自らの判断により米国・カナダ産以外の牛肉等のリスク評価を行うことについて、どのように思われましたか。下記から選んで1つに をつけてください。



問5 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、 をつけてください。



問6 食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。当てはまるものを3つまで選び、番号に をつけてください。

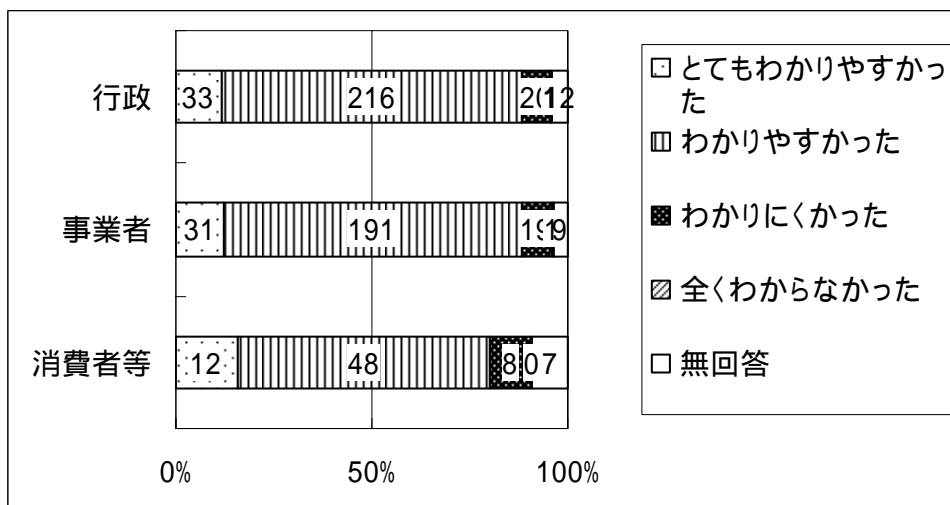


食品に関するリスクコミュニケーション

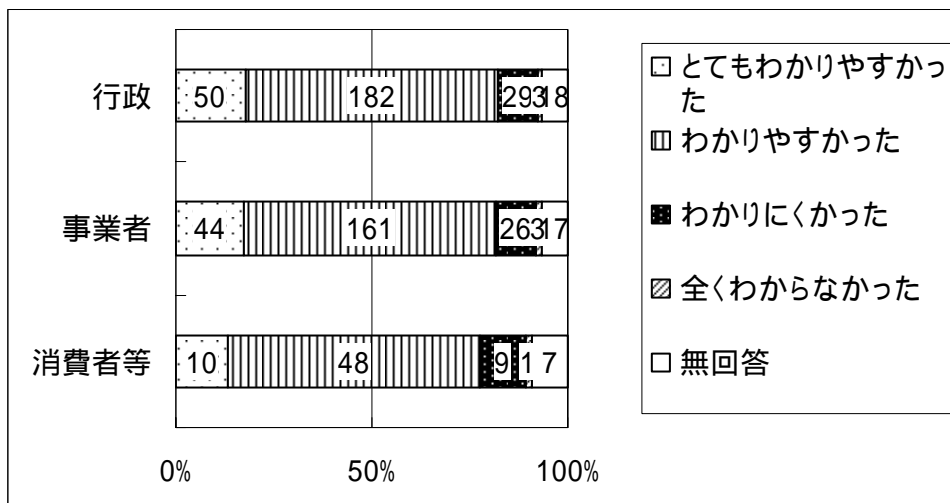
- 我が国に輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価の実施について -

アンケート集計結果のうち、Q2 - 3 ~ 7を属性別に集計

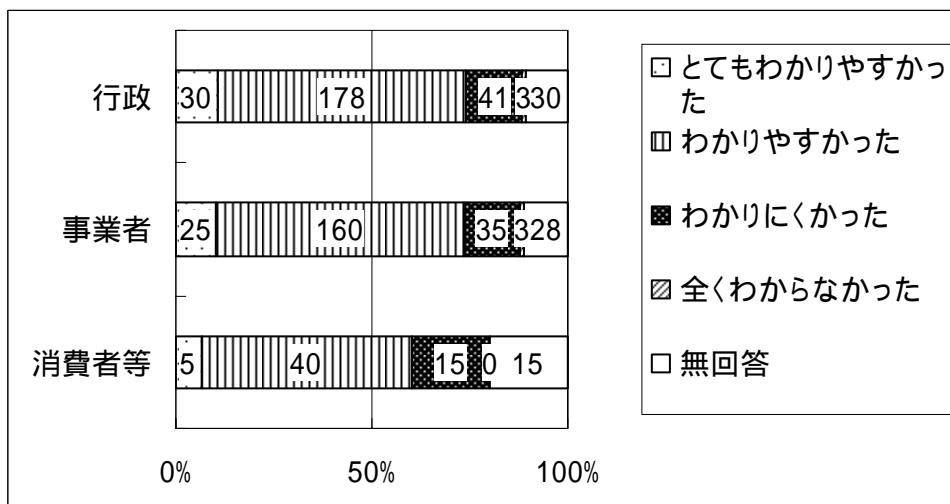
Q2 - 3 . 配布資料



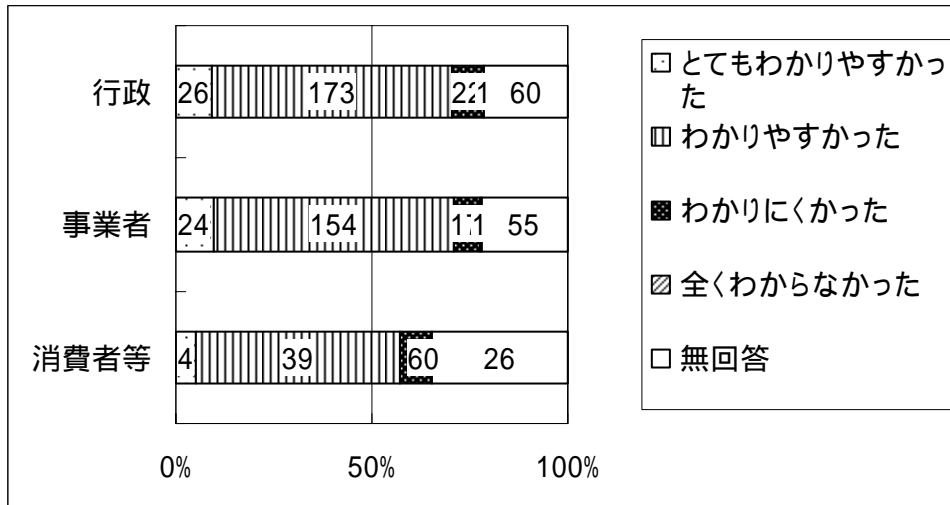
Q2 - 4 . 専門家による講演



Q2 - 5 . パネルディスカッション



Q 2 - 6 . 意見交換時の応答



Q 2 - 7 . 意見交換会全体

